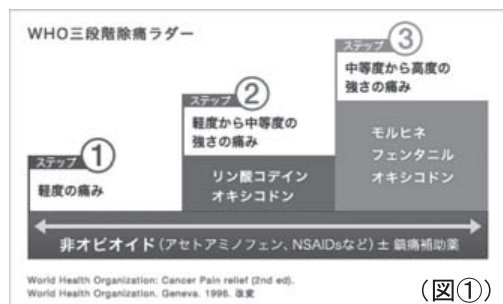


くすりばこ



65. 緩和ケアにおける薬剤

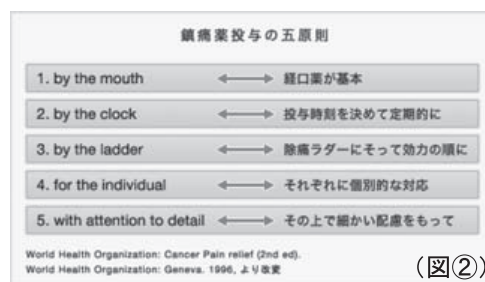
緩和ケアって？と思われる方もいると思いますので、簡単に説明します。緩和ケアとは患者様のからだや心のさまざまな苦痛を取り除き、QOL (Quality of Life＝人がより人間らしく生きていくこと) を高めていく医療のことです。



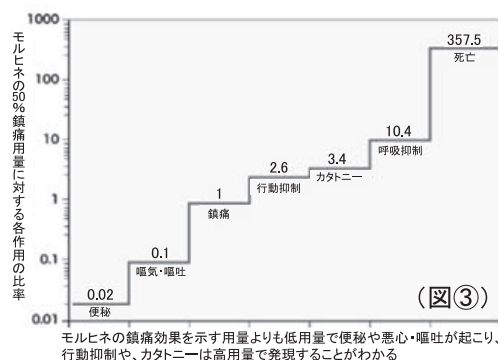
(図①)

使用する薬剤は経口薬が基本ですが、患者様の状態に合わせて経口薬でも錠剤や粉薬、水薬から選択します。また内服が困難な場合であれば貼付剤や坐薬、注射薬といった剤形を使い分けて使用します。重要なのは痛みの種類にあった薬剤をきちんと選択することです。そのためには患者様からの情報(痛みの部位、強さ、持続時間、パターンなど)が大事であり、その情報を基に医師は適切な薬剤を処方することになります。患者様は痛みから解放された状態を保つために、処方された薬剤を医師の指示通りきちんと服用(使用)するように心掛けてください。きちんと守っていただくことが夜間の安定した睡眠や安静時・体動時の痛みの緩和につながります。

しかしながら、鎮痛薬は痛みの原因を取り除いているわけではないので痛みが急に増強したり、それまでとは異なった痛みが現れたりすることもあります。そのような時はレスキュー(定時薬とは別に急に現れた痛みに対して使用する即効性のある薬剤)といった薬剤を使用



(図②)



(図③)

可能になります。モルヒネを例に説明します。図③にあるようにモルヒネの鎮痛効果を得るための必要量を「1」とすると、その50分の1の量で便秘、10分の1の量で嘔気・嘔吐といった副作用が現れるということが様々なデータからわかっています。すべての患者様に現れるわけではありませんが、気になる点があれば医師にご相談下さい。

最後になりますが患者様には医師の処方通り適切に薬剤を使用していただくようお願いいたします。指示通り使っているけれど痛みが取れない、これって副作用？など気になる点やお悩みの点がございましたら医師やスタッフに気軽にご相談下さい。



(薬剤師 野澤 洋平)